

# 令和5年度 第1学年 授業改善推進プラン

昭島市立拝島第二小学校

|      | 指導の実態及び課題   | 具体的な授業改善策  |
|------|---|--|
| 国語   | <p>○授業や学校生活において身近な事柄について話す機会を設けているが、聞き手を意識して事柄の順序を考えたり、理由を話したりすることに課題がある。また、自分の伝えたい気持ちが優先されてしまい、相手の話に関心をもって聞いたり、自分の体験と結び付けて聞いたりすることが十分にできない児童がいる。</p> <p>○拗音、促音、長音を正しく書き表すことができない児童が多い。文字と音、意味が結び付かず、言葉の意味が分からない児童も複数人いる。</p> <p>○音読で、役割読みや相互読みなどいろいろな読み方をする場面を取り入れている。毎日の音読の宿題で、声に出して読み、家の人に聞いてもらう機会をもったので、言葉を意識して読むことができている。</p> <p>○内容の大体は捉えられている児童は多いが、言葉の意味が分からないため、問われていることを理解できず、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したりすることに課題がある児童もいる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く姿勢を毎時間徹底させる。日常的にテーマに沿ってペアで話し合う時間を設けたり、話の感想を伝えたり質問したりする機会を多く設けることで話す・聞く活動に慣れさせる。その際には、観点（声の大きさ・速さ・リズム・発音等）をもたせて話を聞かせ、話し手の良い点や改善点を伝えさせる。また、話の構成を組み立てられるように構成の型（いつ・どこで・だれが・どうした・理由など）を示し、伝えたいことを文に書いて整理してから話すという経験を多く積ませる。</li> <li>・授業の中で文章を書く活動を意図的に多く設定するとともに、児童が「書きたい」と意欲をもてるような題材を設定する。助詞を「くつつきの言葉」と称し、接続をイメージしたカードなどで指導する。</li> <li>・児童に書くことが楽しいと思わせる工夫をし、意欲的に文を書けるようにする。</li> <li>・拗音、促音、長音の指導の際、絵カードやひらがな表を用い、発音をしながら繰り返し書くことで定着を図る。</li> <li>・背筋を伸ばしてよい姿勢で発音することや、唇や舌など口形を意識させる。また、授業の中で音読をする機会を多く設ける。</li> <li>・朝学習の時間を活用し、読書、音読、視写を毎週積み上げていくことで、話す・聞く・書く力の定着を図る。</li> <li>・文字と音声不一致の児童については、教師が文章を指で追いつきながら音読させるなど丁寧に個別に指導する。</li> <li>・書かれている文章をイメージしたり、キーワードに線を引いたりすることで読み取りを確実にする。</li> </ul> |
| 算数   | <p>○根拠を付けて説明したり、友達の発表した内容を理解して説明したりする児童は少ない。</p> <p>○実物やブロックなどの具体物・半具体物を使うことで、数の理解が深まった。</p> <p>○計算技能の習熟が不十分で、計算のやり方が分かっても計算間違いをしてしまう児童がいる。</p> <p>○「なんばんめ」の学習において、集合数(前から何人)と順序数(前から何人目)の使い分けが正確にできない。</p> <p>○加法・減法の意味理解を基にして、式を読み取ってお話作りをすることができない児童が40%弱いる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な考え方を養うために、根拠をもって自分の考えを発表する場を積極的に取り入れる。</li> <li>・自分の考えをもてるように既習事項に基づいて、誰もが答えられるような発問から授業を始める。</li> <li>・児童が考えを発表した際には、根拠を問うようにする。言葉で説明したり操作を行ったりして根拠を示す例を提示する。</li> <li>・継続して具体物、半具体物を操作する活動を多く取り入れ、数の理解をより一層深め、自分で考えたり、友達に説明したりして、概念的な理解を確実にする。</li> <li>・少人数クラスを活用して、児童の習熟度に応じて、丁寧に時間をかけて指導する。具体的には、授業の初めに既習事項を確かめて板書、デジタル教科書等を活用して、基本的な加法・減法計算が確実にできるように指導する。</li> <li>・実際に児童自身を並べ、前から何人目（前から何人）等、具体的な場面を通して指導する。</li> <li>・思考力・判断力・表現力を伸ばすために、自作テストを活用する。</li> </ul>   |
| 音楽   | <p>○楽しみながら、リズムのとり方や曲の感じを体で表現している。</p> <p>○リズムが安定しない児童が数名見られる。</p> <p>○音の場所や指遣いが分からない児童が複数名いる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・CDを聴いて体全体を使って楽しく、リズム（拍）をとれるよう指導する。追いかけてこのある歌やグループごとに聴き合う時間を取り入れることで、安定したリズムが取れるように指導する。</li> <li>・鍵盤ハーモニカでは、指運びの指導を鍵盤ハーモニカの拡大図を使って丁寧に指導する。</li> <li>・個別に教員が回り、オルガンなどを活用し、練習をする。</li> </ul>   |
| 図画工作 | <p>○制作への意欲が高い児童が多い反面、自分が作る作品へのイメージを膨らませることができない児童が10%いる。</p> <p>○クレヨンの使い方のポイントを示した時、クレヨンで隙間なく色を塗る、線で囲まれた形の中をはみ出さないで塗ることが困難な児童が若干名見受けられた。また、ハサミを使って滑らかな線を切ることに課題のある児童が多い。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書などを工夫し、めあてを明確にする。手本を提示することで意欲を喚起し、イメージを膨らませるため材料収集など準備をする時間を確保し、説明は簡潔に行うようにする。</li> <li>・今後も継続して、クレヨンやハサミを使う活動を行い、友達のやり方や作品を鑑賞し合う時間を設けることで、よりきれいに見える塗り方や切り方を意識させ、身に付けさせる。</li> <li>・素材や道具の特色をよく把握させ、それらを生かした活動ができるよう個別に指導・助言をしていく。</li> </ul>  |
| 体育   | <p>○走る、跳ぶ、つかまるといった基本的な動きの体験が少ないと感じられる児童がいる。特に固定施設を利用した、雲梯や上り棒など腕力を必要とする活動の経験が少ない。</p> <p>○走る運動では、真っ直ぐに走る、鬼ごっこの様に限られた範囲でぶつからずに走ることができる児童が多い。</p> <p>○1単位時間の授業で指導する内容を数種類用意したり、動きの動作を考えて行動する活動を取り入れたりすることで、自分の動きを振り返る様子も見られた。</p> <p>○コーディネーショントレーニングや、動物歩きを毎日の宿題にも取り入れたことで、体育の時間に体を動かすことへの抵抗がある児童が少なかった。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が「領域ごとの例示された動き」に取り組む際には、教員が補助をして、成功したときの感覚を体感させる。</li> <li>・教室にて視覚的な情報を基に、事前指導を行うことで、安全に配慮して安心感をもって運動できるようにする。</li> <li>・体育の授業中に運動することの楽しさを実感させ、児童の運動量が増えるように努める。</li> <li>・授業外の働きかけとして、休み時間は、外に出て運動するように声掛けをする。</li> <li>・年2回の体力テストの実施と、その分析に基づいた授業を行うとともに、コーディネーショントレーニングを実施し、児童の運動能力の向上を図る。</li> <li>・学期間の体育の時間を通して、繰り返し反復学習をすることで、その動きに少しずつ慣れさせる。</li> </ul>   |
| 道徳   | <p>○読み物資料を活用した指導を通して、登場人物の心情の変化を考えることができている。その様子から、「友人との望ましい接し方」や「望ましい生活」等について児童がそれぞれ考えをもっている。</p> <p>○自分自身の生活と関連付けて捉えられない児童も多い。そのため活かしていこうとする道徳的な実践意欲や態度が少ない。道徳の学習で学んだことを、自分事として捉え、実生活に反映させていくことが課題である。</p> <p>○日常の出来事や、クラスの実態に応じた、資料の活用や指導内容の工夫をすることで、より主体的に道徳的価値を考えようとしている。</p> <p>○相手の気持ちを考えることはできるが、発達段階を考慮に入れたとしても、自分の思いが強く、自分本位な行動が多く見られる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間に、読み物資料の道徳的価値について児童に考えさせる際に、児童が自分の日常生活を振り返って考える時間を十分に確保するとともに、「自分だったらどうするか」という視点をもたせる。また、学級指導や、学校全体での取組を通して、「こうしていこう。」と考えて実践させる。</li> <li>・日常体験と関連付けた道徳の授業のみならず、各教科指導や学級指導等、平素の教育活動を通して、道徳的価値について考えるよう指導する。具体的には、「どうすれば良かったのか」そして「これからどうしていくか」ということについて、個人もしくは学級で考えて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</li> </ul>  |
| 生活   | <p>○実体験や生活経験が乏しく、想像したり理解したりすることが難しい児童がいる。</p> <p>○気付いたことを観察カードに絵や文で表現することが苦手な児童がいる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節感を大切にし、実際に栽培したり観察を行ったりしながら体験活動を重視した指導を行う。</li> <li>・ICT機器を活用し、写真や映像を見せながら具体的なイメージをもたせる。</li> <li>・観察のポイントをあらかじめ明示し、どこに気を付けたらいいのか意識させながら児童の気付きを促す。国語科と関連を図りながら表現力を身に付けさせる。</li> <li>・課題に対して、理由付けた予想をさせ、これまでの知識や経験、既習事項と比較・関連させながら自分に考えをもたせる。友達と交流を行うことで学び合い、自分の考えを深める場を多く設定する。</li> </ul>   |
| 特別活動 | <p>○給食などの当番活動や係活動に積極的に取り組む児童が多い。</p> <p>○当番活動や係活動など、自分で決めた活動に対して責任をもって最後まで取り組む児童が出てきた。</p> <p>○友達に対する言葉遣いが気になる児童が数名いる。</p> <p>○挨拶や学校のきまりなど基本的な生活習慣が身に付いていない児童がいる。</p> <p>○自分の持ち物の整理をすることが難しい児童が数名見られる。</p> <p>○話し合いのルールが、少しずつ理解できてきた。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番活動の意味や役割分担を明確にし、活動を通して、人の役に立つ喜びを感じ、周りの人が喜ぶ姿を実感させ、集団生活において協力することの大切さを学ばせる。</li> <li>・学級力スタンダードや学級のめあてを活用し、決まりを守ることの必要性や学級がよくなることへの喜びを感じさせる機会を多くもつ。</li> <li>・挨拶の意義を説明し、自主的に挨拶する態度を育てる。</li> <li>・自分のロッカーや机の使い方を確認し、整理する時間を設け、自分で整理できるようにする。</li> <li>・話し合いの仕方を、国語科の学習とリンクして、様々な場面で繰り返し指導し実践させる。</li> </ul>  |